

注意:作業前に必ずお読みください

- シャフト交換は失敗のリスクを伴う作業です。当手順書に従って作業された結果生じた不具合、損害について当社は一切の責任を負いかねますので、その旨ご了承いただけるかたのみ、この手順書を参考に自己責任で作業を行ってください。
- Tahmazoモーターのシャフトは、完成時の精度を出すため固くはめ込まれていますので、簡単には抜けない場合があります。
- 墜落等でアウターローターが変形したり歪んだりした場合は、シャフトを交換しても元通りに修復出来ない場合があります。
- 当社ではシャフトのみの交換作業は行っておりません。当社にて承りますTahmazoモーターの修理は新品への全交換となります。修理価格についてはそれぞれのモーターの取扱説明書をご覧ください。



(1) 交換シャフトに付属の六角レンチを使ってハウジング後端にあるイモネジを外す。



(2) モーターシャフトに合った穴を開けた鉄パイプまたは堅木の棒(受け台)を準備する。穴の深さはシャフトの全長より長くなければいけません。



(3) アウターローターは柔らかいアルミ合金製ですので僅かな力で変形する可能性があります。ごく僅かな歪みが生じてモーターを回転させた時にブレが出ますので、作業の際は必ず受け台を使って下さい。このとき、後側ハウジングのシャフトを保持している平らな部分に堅木の棒があたるようにします。(受け台は作業台の上に固定するか、助手のかたにしっかり支えてもらってください)



(4) 受け台の穴にシャフトを入れ、シャフトより少し細いピアノ線等を当てて上から少しずつシャフトを叩き抜きます。絶対に受け台無しでシャフトを叩かない様に、また受け台がフランジに当たらない様にして下さい!



(5) ネジロックがよく効いてシャフトが抜けにくい場合があります。その時は容量の大きなハンダごてで熱を加えると抜けやすくなります。※ライター等の直火はダメです。



(6) 新しいシャフトを入れる時は、回り止めの切り欠きの向きに注意して内側から垂直に打ち込みます。シャフトを傷つけないよう必ず当て木をし、またフランジ部分に変形しないよう様に、大きな力で一度に打ち込むのではなくコツコツと無理をせず慎重に叩き込んでください。



(7) ネジロックをつけてイモネジを締め込みます。出来上がったあと元通りに組み立て、手で回して異常がなければ試運転してください。試運転の際はゆっくり様子を見ながら回転を上げてください。

OK MODEL CO., LTD.

本文の一部またはすべての記述について、株式会社OK模型の承諾を得ずに無断で複写、複製することを禁じます。

© COPY RIGHT 2008 OK MODEL CO.,LTD.